

株式会社Blau



最先端のモバイルサービスを 支えるエンジニア

通信の高速化、増加するアクセスへの対応……めまぐるしい技術革新とともに、一層の拡大が予想されるモバイルコンテンツ業界。市場の成長に合わせるように売上を伸ばすBlauは、プロデューサーとエンジニアによる二人三脚の運営が基本となる。膨大なユーザーを相手に展開する多様なコンテンツは、アイデアとコミュニケーション、さまざまな人の手によるソフトとの融合である。

村上直 慶應義塾大学 法学部 政治学科卒
代表取締役社長

村上知 慶應義塾大学 理工学部卒
代表取締役副社長

携帯電話＝モバイルに関しては、 日本は世界の中でも最先端。

株式会社Blau代表取締役社長、村上直が語るように、モバイルインターネットの市場は技術革新が早く、最もホットな業界の一つだろう。Blauはその市場がまさに急拡大しようとしていた2001年に創立。以降、市場の成長に身を合わせるかのように売上を伸ばしている。会員数18万人を誇る着うた・着メロサイト「無制限★99円」(Ezweb公式サイト)をはじめ、映画情報やスポーツ関連サイトなど全56サイトを運営。人気イラストレーターと提携した中高生向けの待受け・デコメール

サイトなどさまざまなコンセプトのサイトを抱えている。「現在のコンテンツ市場の伸びは、ドコモのFOMAやAUのWINといった高速通信の携帯電話が大分普及し、パケット定額が定着してきたことが大きいですね。今後はさらに通信スピードが高速化された携帯電話が出てくる。パソコンのインターネットがADSLや光ファイバーの普及で飛躍的に進化したように、モバイルはまだ進化しているんです」(村上直) その成長の屋台骨を支えるのが、サイトを設計・開発するエンジニアである。村上社長の弟であり、エンジニアである村上知・代表取締役副社長は言う。「モバイルインターネットが高速化する中で、サーバーへのアクセス量はどんどん増えています。その負荷の問題を解決す

ることも、エンジニアの重要な役目です」

サイトの企画や販売計画をたてていくプロデューサーと、それをプログラミングによって実現させるエンジニア。Blauでは、この二人がチームを組んで、一つのサイトをつくり、育てていく。テーマを決め、二人で協調しながら、サイトの展開を行っていくのだ。責任範囲はものすごく広いが、エンジニアにとっては「実現したい」ことがすぐにできる部分が魅力でもある。

例えば、映画情報のサイト「ハリウッドスターの素顔」(i-mode、Ezweb、Softbank、WILLCOM公式サイト)。新作映画の情報やスケジュール情報が中心だが、他にもいろいろユーザーを楽しませる要素が盛り込まれている。

「俳優や映画を探すための検索機能も、ユーザーに使いやすくしなければなりません。また、インタビューのコーナーでは、動画も配信しています。実際、弊社ではこのサイト向けに独自のインタビューも行っています。そうしたさまざまなシステムを実現させることでサイトは充実していきますし、ユーザーも増えていくのです」(村上直)

プロデューサーとの日々の活動の中から、プログラマーとして企画・発想どおりにシステムが動いたときの喜びは、まさに「つくる喜び」である。運営はたった2人だが、相手にしているのは「万」単位のユーザーだからだ。結果がいいときもわるいときも、膨大なユーザーから反応がかえってくる。

目の前に座っている相手との和気あいあいとしたコミュニケーションから、新しいサービスを生み出していく。事実オフィスの雰囲気は若々しく、気さくである。

「ウチのようなモバイルインターネットの会社が通常のシステム会社と違うのは、1人でシステムの設計もプログラミングも完遂するところでしょう。インターネットのオープンな世界に興味があって、かつプログラミングが好きな人であれば、本当に魅力のある世界だと思います。大学の授業の中で「プログラミング」という行為に面白さを感じた人や、「自分はこれが得意だ」と思った人であれば、誰でも魅力を感じられるはずだ」(村上知副社長)

「オープン」なインターネットの スピード感

村上知副社長がそのように語るのも、村上知副社長自身が「プログラミング」という仕事を心底好きだからである。村上知副社長が最初にこのIT業界に関わったのは、なんとYahoo!



JAPANの仕事をするアルバイトだった。Yahoo! JAPAN内にある「Yahoo! 自動車」というメニューで、自動車を買いたいと思っているユーザーと、自動車の販売会社をマッチングさせる機能を持つ。価格や車種、地域などを設定すると、条件にあった自動車ディーラーが見積もりを出し、その中からいい条件を見つけることができる。

「結局、大学での情報系の授業でプログラミングをやって、その魅力にとりつかれたのが原点ですね。もともとネット系に興味があって、メーカーに行こうとは思わなかったですが、実際に就職よりもアルバイトの方が先(笑)。プログラミングが好きだったので、プログラミングのアルバイトを探していたら、



インターネットで見つけたのがネットエイジであり、そこで携わるYahoo! 自動車のシステム開発という仕事でした」(村上知副社長)

ネットエイジと同様、日本のインターネットの先駆的な存在であるサイバーエージェントのスタッフだったのが村上直社長である。兄弟共、日本のインターネットの成長に直接携わってきたわけである。

「インターネットが盛り上がり始めたときに、インターネットに関わる仕事を始めました。そのなかで、さらに成長しているのが携帯電話の世界で、いま自分はそこにいます。今は50万人の利用者がいますが、まずは5年で100万人規模にしたいですね。当然アイデアも必要で、いろいろな人の力を借りたい」(村上直社長)

そんな村上直社長の横で、「幸せだと思います」と言い切るのが、エンジニアである村上知副社長である。

「成長の中に変化の激しい業界だからこそ、プログラミングが、楽しいのです。特に、インターネットは『オープン』という魅力があります」

インターネットの場合、土台になるソフトウェアやモジュールを世界のいろいろな人が作っている。Linuxなどのオープンソースである。エンジニアは、それを集めてきて新しいシステムを作ってしまう。例えば金融システムのように一から全部作っていかねばならないシステムと違い、システムの構築にスピード感がある。

「やっている本質は変わらないんですよ。パズルとか知的ゲームと同じ。そんな面白い業界で、若いスタッフと一緒にサービスを創っていければ」と語る村上知の後ろからは、若いスタッフ同士の熱気溢れるやりとりが聞こえてくる。